

ふじさわこどもまちづくり会議 20年の証

暮らすまちが自慢の学校になっていた。

こども目線の教育とは、伝える教育ではなく「伝わる教育」である。そしてこどもの感性から、我々大人が教えられる教育なのである。

目的：

こどもたちの感性のすばらしさと集中力のたくましさを、地域教育の中で育み、こどもたちが大人になった時に、自分のまちを自慢でき、愛着をもつてもらうきっかけをつくることが目的です。そして、他の小学校や学年違う子たちと一緒に、学生・社会人スタッフと協力しながら一つのまちを作り上げる達成感と喜びを感じもらうことで、まちづくりの基本である人との関わりを学んでもらうことも、この活動の特徴です。

具体的な内容：

この活動は 1998 年の第 1 回大庭地区から始まり、毎年 1 回（第 12 回・13 回は同年春秋 2 回）秋の週末 2 日間藤沢市内 13 地区を毎年変えて開催し、昨秋第 20 回記念大会を開催しました。

参加者は、昨年度より参加人数増員して、藤沢市内在住の小学生 50 名が対象です。スタッフは、コアの社会人 20 人程度に、開催地区の市民ボランティアと学生 30 数名からなります。

一日目にこどもたちがスタッフとともに開催地区を散策して「現在」を知り、地域を熟知する方にそのまちの歴史について講義して頂き、その資料を通じて「過去」を学びます。その上で、こどもたちが自分のお父さん、お母さんの年齢になった時、そのまちがどんなまちに変わっていたら良いかを話し合い一つの結論を決定します。

その会議決定に従った 30 年後の「未来」のまちを、1 日目後半から 2 日目に掛けて制作（1/500 の都市計画模型）します。

成果・実績：

楽しいことはいつまでも記憶に留まる。回を重ねることに複数回参加のこどもたちが、率先してより地域の未来を考えた提案が議論されます。なかでも低学年のこどもの方が感性溢れるアイデアも多く、先輩達を諂ひしていく姿にスタッフは驚ろきます。そのため、主に企画を担当する学生達も質の高い企画を立案する様になり、結果としてまちづくりの質の向上に繋がっています。

- ・ 2004 年（財）まちづくり市民財団 「わたしの“まち”を美しく」アウトドア・クラスルーム登録
- ・ 2006 年 全国小学校の教職員に配布される「教室の窓・小学校图画工作」副読本に掲載
- ・ 第 4 回子ども環境学会・神奈川全国大会での招待スピーチ
- ・ 第 7 回日本都市計画家協会特別賞「まちづくり教育部門賞」受賞
- ・ 第 1 回ふじさわ景観まちづくり賞 まちづくり部門 受賞
- ・ 平成 24 年度～教育出版社刊：中学校社会 公民 掲載（2012～2015 年度）
- ・ 2013 年度（公財）あしたの日本を創る協会 あしたのまち・くらしづくり活動賞 振興奨励賞 受賞
- ・ 2014 年 JIA ゴールデンキューブ賞 組織部門 特別賞 受賞
- ・ 2016 年都市景観大賞 景観まちづくり活動・教育部門 優秀賞 受賞
- ・ JIA 関東甲信越支部大会 地域に根ざす建築作品・活動カタログ 2016 地域特別賞 受賞

楽しかったことは記憶に残る。

この事業の根幹は、こどもたちの感性をいかに導き出すか、である。それはフレッシュマンスタッフの新しい企画力にかかっている。

成果物と評価：

成果物：会議で決定した 30 年後の未来のまち模型（1/500、1800mmx2400～2700mm）
評価：～20 年続けてきた成果～“人をつくり、まちをつくる”

1. こども目線が地域を動かしている：
その芽吹きを、スタッフが確実に市民に伝えていきます。
2. こどもたちが大学生、社会人スタッフとして支える側に：
一度はまちを離れ、社会へと旅立ったこどもたちが中心的なスタッフとして、ふじさわに戻ってくるようになりました。
3. ジュニアボランティア制度を創設：
こどもたちがジュニアボランティアとして継続的に参加卒業後も、継続して参加したい新中学生の声が増えたことから、ジュニアボランティア制度を創設しました。
4. 学生スタッフ卒業生の継続的なサポート：
OB として時には参加し、また学生スタッフの良きアドバイザーにもなっています。「この活動に参加したことが、社会人として最も役に立っている！」という言葉から協調力、企画力、そして忍耐力が養われていることを確信しています。

参加したこどもの年齢層： 7 歳～12 歳（小学生）

参加したどもの人数： 1998 年から述べ 775 名、2016 年度 53 名

活動期間： 2016 年第 20 回記念大会は 11 月 19 日・20 日（2 日間）に開催

チーム・メンバー：

2016 年実績

社会人スタッフ 27 名（22 歳～84 歳）

（地域の方・建築家・行政職員・大学教職員・幼稚園教諭・会社員（学生スタッフ OB/OG 含む）他）

学生スタッフ 41 名

（大学生 37 名、高校生 1 名、中学生 3 名）

過去スタッフ参加した大学（院）生の在籍校名

慶應義塾大学・大学院、早稲田大学・大学院、日本大学、東海大学、関東学院大学、千葉大学大学院、東京理科大学、法政大学・大学院、桜美林大学、目白大学、九州大学大学院、東京工業大学、中央大学、明治大学大学院、湘北短期大学、日本女子大学、産能大学、文化学園大学、東洋大学、上智大学、白百合女子大学、岩手大学

共催：湘南会議、湘南ボード、鶴沼の緑と景観を守る会、（財）藤沢市みらい創造財団（～2015）

後援：藤沢市、藤沢市教育委員会

活動の様子や成果

